F2-54

# 住商混在地域における児童の地域認識に関する研究
## —（その２）東京都大田区大森北地区の児童の「よく遊ぶ場所」について—
## A Study on the Regional Recognition of Children in Residential Commercial Mixed Use Area
## -(Part2) About the favorite playground of children in Omori-kita district of Ota-ku,Tokyo-

○関根博史[1]，横内憲久[2]，岡田智秀[2]，森 紗耶[1]
*Hiroshi Sekine[1], Norihisa Yokouchi[2], Tomohide Okada[2], Saya Mori[1]

Abstract: The purpose of this paper is to clarify the favorite playground of the children who belong to Iriarai Daiichi Elementary School 6 grader in the residential commercial mixed area of Ota-ku, Tokyo. As a result, children prefer the park that is allowed both tag game and ball play in case of outdoor. In addition, they prefer the children's house that is possible to do various plays regardless of the weather in case of indoor.

**１．研究目的—**前稿では，大田区立入新井第一小学校第６学年児童を対象として，第１回ワークショップ（以下，WS）によって得られたまちの「お気に入り」とその特徴を捉えた．その結果，児童は日常の買い物行動を通じて品揃えのよい大型店舗を評価している実態を把握した．そこで本稿では，大型店舗の利便性をお気に入りとする“商業のまち”において，児童がどのような遊び場を評価しているかについて明らかにする．

**２．研究方法—**本稿では，前稿と同様に第１回 WS 成果（表１）を対象とし，そのテーマの一つに掲げた「よく遊ぶ場所」において，共通意見の多かった遊び場と遊び方およびその空間的特徴について考察する．

**３．結果および考察—**表２は，「よく遊ぶ場所」について議論を行った全７班の共通意見として挙がった第１位から第５位までの全７カ所とその評価理由およびそこで挙げられた公園の空間規模を５㎜メッシュを用いて算出した結果を示したものである．これより，全７カ所のうち，公園が５カ所挙げられていることから，児童の主たる遊び場は公園といえよう．その第１位は「入新井公園」であり，多くは鬼ごっこやボール遊びができることを理由に挙げている．この公園の総面積 2,575 ㎡に対してオープンスペースが８割を占めており，これは全５公園の中で最大であった．当公園の配置構成として，ボール遊びの空間と遊具のスペースが明確に分離されており，進入できない植栽帯は公園の外周部に位置し，公園中央は下草のない高木であるため，公園全体を使って鬼ごっこが楽しめる．同様に第１位の「大森北児童館」は，屋内施設であるため，天候に左右されずにボール遊びができ，漫画も読めるなど多様な遊びが行えることが評価されている．第３位の「入三西公園」は鬼ごっこや遊具が挙げられている．これは，オープンスペースが全体の６割を占めるにも関わらず，滑り台を含んだ複合遊具が公園の中心部に位置するため，オープンスペースが分断され，ボール遊びよりも，遊具そのものや，それらを利用した鬼ごっこが好まれたと考える．第５位の「不入斗パーク公園」「清花公園」は，ともにボール遊びが，「大森北公園」では遊具による遊びが挙げられた．前者の「不入斗パーク公園」はオープンスペースが全体のおよそ７割を占め，主にボール遊びが中心となっているが，実はこれが禁止事項に挙がっている現状がある．後者の「清花公園」はオープンスペースが全体の５割しかない中でボール遊びが挙げられているが，これは 240 ㎡ほどの金網フェンスで囲まれたボール遊び専用の空間が確保されているためである．また，「大森北公園」は特大サイズのタイヤを用いた遊具のほか空中回廊や滑り台などが公園全体に広がっているため遊具への関心が高まっていると考えられる．

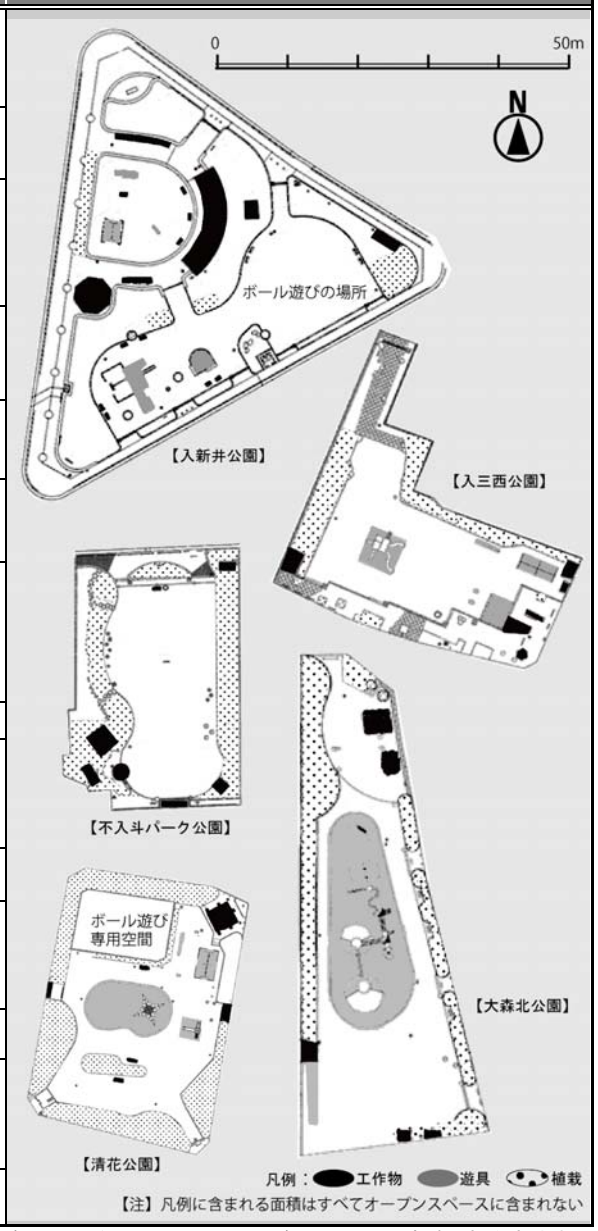
**４．まとめ—**以上より，入新井第一小学校第６学年児童にとっての「よく遊ぶ場所」は，屋外では公園のみであり，屋内では児童館が高く評価されており，一般的にかつて見られたような児童自らが発掘する路地や空き地といった遊び場は皆無であった．これは住商混在地域の性格上，激しい交通の往来や建物が密集して立地している現状が大きく影響していると考えられる．このことから，当地域では子供の遊び場を計画的に整備していく重要性が示唆される．この点につき，「入新井公園」に見られたように“鬼ごっこ”と“ボール遊

表１　第１回ワークショップの概要

| | | |
|---|---|---|
| WS1 | 日時 | 2015 年（平成 27 年）６月８日（月）８:45～10:20（１～２時間目） |
| | 場所 | 大田区立入新井第一小学校　第６学年教室および体育館 |
| | 参加者 | 第６学年 95 名，同・担任３名，日大理工学生９名，同・教員１名 |
| | プログラム | Ⅰ．各班に分かれて自己紹介・自分の地域の特徴紹介<br>Ⅱ．みんなに知ってもらいたい，入一小自慢の大森の魅力抽出<br>①お気に入りの〇〇，②よく遊ぶ場所，③嫌いなところ<br>Ⅲ．発表（大森地区の Best５の魅力を発表） |

１：日大理工・学部・まち　２：日大理工・教員・まち

表２　「よく遊ぶ場所」の上位５位(全７カ所)と評価された公園の面積および平面図

| 順位 | 1．場所の名称 | 2.よく遊ぶ場所として指摘した班(距離) | 合計 | 3.よく遊ぶ理由と班の合計数(複数回答)<br>4．公園の面積<br>①総面積<br>②オープンスペースの面積<br>③②/①(オープンスペース率) | 5．平面図(セイムスケール) |
|---|---|---|---|---|---|
| 1位 | 入新井公園 | 1班(250m)<br>2班(30m)<br>4班(290m)<br>5班(560m)<br>7班(760m)<br>8班(240m)<br>9班(710m) | 7班 | ・鬼ごっこをする(4班)<br>・ボール遊びをする(3班)<br>・広くて遊びやすい(2班)<br>・友達と遊べて楽しい(1班)<br>①2,575 ㎡ ②2,112 ㎡ ③82% |  |
| | 大森北児童館 | 1班(510m)<br>2班(430m)<br>4班(370m)<br>5班(430m)<br>7班(540m)<br>8班(550m)<br>9班(370m) | 7班 | ・ボール遊びをする(4班)<br>・漫画がある(3班)<br>・雨で遊べる(2班)<br>・近くに人がいる(1班)<br>・他の学校の人と遊べる(1班)<br>① － ② － ③ － | |
| 3位 | 入三西公園 | 1班(600m)<br>7班(40m)<br>8班(930m)<br>9班(320m) | 4班 | ・木が多く日影が多い(2班)<br>・鬼ごっこをする(1班)<br>・遊具が新しい(1班)<br>①1,090 ㎡ ②676 ㎡ ③62% | |
| | 自宅 | 2班(－)<br>5班(－)<br>8班(－)<br>9班(－) | 4班 | ・遊ぶ(ｹﾞｰﾑ等)(4班)<br>・のんびりできる(3班)<br>・読書をする(2班)<br>・家の中が涼しい(2班)<br>・ボール遊びをする(1班)<br>・勉強をする(1班)<br>① － ② － ③ － | |
| 5位 | 不入斗パーク公園 | 2班(510m)<br>5班(190m)<br>7班(280m) | 3班 | ・ボール遊びをする(3班)<br>①1,188 ㎡ ②796 ㎡ ③67% | |
| | 清花公園 | 1班(510m)<br>4班(10m)<br>7班(850m) | 3班 | ・ボール遊びをする(1班)<br>・安全に遊べる(1班)<br>・縄のタワーがある(1班)<br>①2,219 ㎡ ②1132 ㎡ ③51% | |
| | 大森北公園 | 1班(680m)<br>4班(240m)<br>5班(930m) | 3班 | ・遊具が多い(1班)<br>・タイヤがたくさんある(1班)<br>・アリジゴク(ウスバカゲロウ)がいる(1班)<br>①1,481 ㎡ ②711 ㎡ ③48% | |



【注】()内の距離は各班の居住エリアの中心から各場所までの直線距離を意味する

び”が同時に満たされる空間構成が最も好まれることを捉えた．これに加え，“遊具”を公園の外周部に配置し，中央に多様な利用を可能とするオープンスペースを配する必要性と，このオープンスペースの規模が公園全体の６割以上であると“ボール遊び”が誘発されることも捉えられた．また，同じ条件でも「入三西公園」のように“遊具”が公園の中心部に配置されると“ボール遊び”にとって代わり，“鬼ごっこ”や遊具による遊びが展開される実態も見出された．これに対して，オープンスペースが全体の７割を占める「不入斗パーク公園」は，上述の通り，ボール遊び中心の現状であるが，実際には当公園の規則として“ボール遊び”が禁止となっているという，当公園の空間構成と児童の遊び方において矛盾をはらむ問題点も浮き彫りになった．これらのことから，住商混在地域である当地区では，遊び場が公園という限定された空間であることから，児童の遊びに対する欲求に応じた適切な公園の空間整備が強く求められよう．

**謝辞**

本研究を進めるにあたり，資料提供でご協力いただいた大田区役所都市基盤管理課の公園担当者様に厚く御礼申し上げます．なお，本研究成果の一部は，(一財)都市文化振興財団の「景観まちづくり学習助成事業」によるものである．